

『鹿児島県史料集』とは？

『鹿児島県史料集』は、郷土資料の保存を図るとともに、地方史の研究や県民の文化向上に役立てることを目的として、昭和34年度から刊行しています。2023年3月現在、第61集まで刊行しています。

◇鹿児島県立図書館ホームページにて、PDFデータを公開しています。

鹿児島県立図書館（本館）>貴重資料>鹿児島県史料集

◆『鹿児島県史料集』は、販売しておりません。◇既刊行のものは、貸出や複写が可能です。

◆国立国会図書館、鹿児島県内の市町立図書館・大学等附属図書館へは、発行の都度送付しています。

『鹿児島県史料集』刊行状況

No.	史料名	内 容	執筆者	刊行年度
第42集	薩藩名勝志（その一）	本書は、「三国名勝図絵」が編纂される以前に刊行されたもので、薩摩の名勝・寺社などを表し、特に豊富な絵図や読みを添えたことでも貴重な資料といわれています。今回は、特に鹿児島大学附属図書館所蔵の玉里文庫本から絵図を補充収録させていただきました。	吉元 正幸	平成14年度 (2002)
第43集	薩藩名勝志（その二）	本書は、「三国名勝図絵」が編纂される以前に刊行されたもので、貴重な資料ともいわれています。「その一」で巻之一（鹿児島）から巻之五（日置郡）までを掲載し、今回の「その二」では、巻之六（川辺郡）から巻之十（高城郡）、現在の揖宿、川辺、川内、出水及び甕島地区を紹介しています。	吉元 正幸	平成15年度 (2003)
第44集	薩藩名勝志（その三）	本書は、平成15年から刊行している「薩藩名勝志」の最終号であり、巻之十一（噌於郡）から巻之十九（諸縣郡）、現在の曾於、肝属、始良地区、宮崎県都城市・小林市等の名勝地や寺社などを、豊富な絵図を添えて紹介しています。	吉元 正幸 塩満 郁夫	平成16年度 (2004)
第45集	鹿児島県布達（上）	本書は、明治19年2月以前に行政官庁がその官庁の内部または、下級の行政官庁を指揮するために発した命令（布達）を収載したものです。今回は「明治五年より九年に至る」「明治五年六月より六年十二月に至る」「明治拾年壱」及び「明治拾年弐」を掲載しています。	宮下 満郎	平成17年度 (2005)
第46集	鹿児島県布達（下）	本書は、第45集の続編で「明治拾年参」「明治拾年ハ」及び「明治拾年九」並びに「御布達並雑書」を収録したもので、当時の行政官庁がどのような仕事をしていたかを知ることができる資料です。	宮下 満郎	平成18年度 (2006)
第47集	伊地知権左衛門日記・先君掖官遺抄	本書は、江戸時代前期に藩の譜請奉行等を経験した伊地知権左衛門が至仕するまでの一代を記録したものです。「先君掖官遺抄」は、「旧記雑録」の编者、伊地知季通による納殿役関係文書等の集輯本であり、人名に関しては第13集「本藩人物誌」第14集「薩陽過去帳」を補足するものです。	堂満 幸子 林 匡	平成19年度 (2007)
第48集	加治木古老物語・雑事奇談集、薩藩雑事録・旧薩藩奇談（譚）旧記集	本書は、近世初期の説話を編集したものです。このうち「加治木古老物語」の古老とは、島津義久の弟で島津氏の三州統一と九州制覇及び朝鮮出兵・関ヶ原で活躍した島津義弘です。「雑事奇談集」「薩藩雑事録」「旧薩藩奇談（譚）旧記集」もほぼ同じ時代の内容で、説話形式ですが、歴史的価値の高い史料です。	安藤 保 徳永 和喜	平成20年度 (2008)

第49集	西藩烈士千城録（一）	本書は、戦国時代から近世初期にかけて活躍した島津歳久をはじめとする島津家家臣の列伝です。島津久光の師である上原尚賢（別名、鴻）が編纂し、後に島津久光が精写したもので、今回は、巻十二までを刊行しました。	徳永 和喜	平成21年度 (2009)
第50集	西藩烈士千城録（二）	本書は、戦国時代から近世初期にかけて活躍した島津歳久をはじめとする島津家家臣の列伝です。島津久光の師である上原尚賢（別名、鴻）が編纂し、後に島津久光が精写したもので、今回は、巻十三から巻二十六までを刊行しました。	徳永 和喜	平成22年度 (2010)
第51集	西藩烈士千城録（三）	本書は、戦国時代から近世初期にかけて活躍した島津歳久をはじめとする島津家家臣の列伝です。島津久光の師である上原尚賢（別名、鴻）が編纂し、後に島津久光が精写したもので、今回は、巻二十七から巻三十五までを刊行しました。	徳永 和喜	平成23年度 (2011)
第52集	通昭録（一）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、総目録及び巻之一から巻之八までを刊行しました。	安藤 保 清水 勝	平成24年度 (2012)
第53集	通昭録（二）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之九から巻之十七までを刊行しました。	塩満 郁夫 尾口 義男	平成25年度 (2013)
第54集	通昭録（三）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之十九から巻之二十八までを刊行しました。	丹羽 謙治	平成26年度 (2014)
第55集	通昭録（四）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之二十九から巻之三十五までを刊行しました。	中山 右尚	平成27年度 (2015)
第56集	通昭録（五）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之三十七から巻之四十二までを刊行しました。	中野 翠 尾口 義男	平成28年度 (2016)
第57集	通昭録（六）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之四十三から巻之四十八までを刊行しました。	丹羽 謙治	平成29年度 (2017)
第58集	通昭録（七）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之四十九から巻之五十四までを刊行しました。	丹羽 謙治 堂満 幸子 塩満 郁夫	平成30年度 (2018)
第59集	通昭録（八）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之五十五から巻之六十までを刊行しました。	徳永 和喜 中野 翠 日隈 正守	令和元年度 (2019)
第60集	通昭録（九）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之六十一から巻之六十六までを刊行しました。	林 匡 佐藤 宏之 三木 靖	令和2年度 (2020)
第61集	通昭録（十）	本書は、江戸時代後期 得能通昭が郡奉行や勸農使として務める傍ら収集したものを江戸在勤中にまとめたもので、今回は、巻之六十七から巻之七十二までを刊行しました。	尾口 義男 丹羽 謙治	令和3年度 (2021)